

第三天使の使命 獣とは？

難しいテーマ？固い主題？しかしどうしても知らなければならない！なぜか？

黙示録 14:6「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて」とある。

しかも、これは永遠の福音であるという！第三天使の使命が？

地球最後の全人類に知らさなければならない「福音」？読んでみよう：

黙示録 14:6～12：

9-11 「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない」

第一天使の使命に現代人に対する福音があることを学んだ。この現代の真理を拒んだキリスト教諸教会はバビロン「混乱」となっていることを学んだ。神の裁きの時は来た！純粹の真理に立ち返る時である。

さて、**第三天使の使命**は、最も厳粛な恐るべき警告の使命である。命と死かに関わる問題である。我々は獣について、獣の像について、獣の刻印について知るべきか、重要か？もし生死に関わる警告であるなら、それを無視して無事ではあり得ない。救いに関わることか？

黙示録 13章によると、全世界の人が獣を拝むか、神を拝むか、どちらかを選ばなければならない事件が近い将来来るといふ。獣に支配されるか、神に支配されるかの決断の時が来る。

では、獣とは何かを知ろう：

この獣とは**反神、反キリスト**勢力であることは明らかである。6つの描写：

1. 2テサロニケ 2: 3-9「自分は神だと宣言する...**不法の者(罪の人、欽定訳)**...あなたがたが知っているとおりに、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。**不法の秘密の力**が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。その時になると、**不法の者**が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。**不法の者**が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである」
2. ダニエル 7章：恐ろしいことをなす「**小さい角**」
3. 黙示録 13：1-10：全世界を支配する冒流的な「**混合獣**」
4. 黙示録 17章：全世界を支配する「**大淫婦**」
5. ダニエル 11:40～45：全世界を支配する「**北の王**」
6. マタイ 24:15：「**荒らす憎むべきもの**」

今日は、ダニエル 7章と黙示録 13章の比較から学ぶ：

黙示録にバビロンを構成する者が三つあることを学んだ。

- ・エリヤは3つの敵と戦った。王、大淫婦、偽預言者
- ・バプテスマのヨハネも、王、大淫婦(ヘロデヤ)、娘(サロメ)

黙示録にも、神の民の敵、バビロンを構成するもの三つ。

黙示録 16:19、13、14 龍と獣と偽預言者：

1. 龍 黙示録 12 章
2. 海獣 黙示録 13 章
3. 地獣(小羊のような角を持った獣)

黙示録 17 章、今日は研究しないが、王たちと大淫婦と娘達

黙示録 16:19 大いなる都は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れた。神は大いなるバビロンを思い起し、これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

16:14 また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。

- ・全世界の王たちに。口からメッセージを、ぶどう酒(教え)
- ・三重の使命は天使の使命声—全世界の人々に。

黙示録 17 は黙示録 16 章の拡大した章。17:18.

- ・17:14—小羊と聖徒たちに戦いを挑む。

では、ダニエル 7 章を見よう：

4 つの獣：

- ①しし—バビロン
- ②熊—ペルシャ
- ③豹—ギリシャ
- ④恐ろしい獣(ゴジラ?)—ローマ

⑤その後、紀元 476 の後、10 の角—分裂したヨーロッパ、第四の獣に 10 の角は最初からなかった。24 節「この国から起こる 10 人の王」

- ⑥その中から「小さい角」→巨大な角になる。

順序よく起こる帝国！

ダニエル書と黙示録は一つの預言書：

黙示録 12:1—4 龍に 10 の角、龍は、第一義的にはサタンであるが、第二義手にはローマ帝国。

- ・女は、真の教会。男の子=イエスを産もうとしていた。ローマ帝国の時代。

- ④ローマ帝国=龍

- ⑤その次の帝国は？

黙示録 13:章

1、2 節：

海獣は？混合獣、ひょう、熊、しし、龍 4 つの獣。ダニエル 7 章と同じ。

しかし、順序が逆になっている。なぜ？ダニエルは未来を見ている。ヨハネは過去を見ている。

黙示録 14: 9-11 の獣とは？

ダニエル 7:23、24 によると、「小さい角」反キリストはいつ起こるか？

- ・ローマ帝国の後→10 に分裂—「この国から起こる」
- ・24 節「その後にまた一人の王」「小さい角」
- ・ローマの三つのステージ：

- ①ローマ帝国
- ②分裂したローマ=ヨーロッパ

③小さい角ローマ＝黙示録 13 章の混合獣＝ローマ法王教

1. ローマ法王教はいつ起こるか？順序よく起こることを覚えよ。

- ・ギリシャのアンティカス・エピファネス 一般諸教会の解釈の混乱！
- ・ローマ帝国滅亡の後＝紀元 476
- ・ローマ分裂したヨーロッパの後
- ・**ローマ法王教はヨーロッパをどれくらいの期間支配するか？**

ダニエル 7 : 25 ひと時と二時と半時＝1260 日

ひと時＝1 年—ネブカデネザル王 4 : 16 「7つの時」＝7 年

1 年＝360 日

1 日＝預言の計算で 1 年

∴ 1260 年

黙示録 12 : 14 、女は龍に追われて 1 年、2 年、半年の間荒野で養われる。

6 節「1260 日」

黙示録 13 : 5 「42 か月」＝1260 日＝ひと時と二時と半時

歴史の流れを把握せよ！

- ・**1260 日/年のローマ法王教の支配の終わりに何が起こるか？**

黙示録 13 : 10 「とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない」

- ・「とりこ」 マルチン・ルター「バビロンの捕囚時代」と表現
- ・「つるぎ」とは？ ローマ 13 : 3,4 行政権
- ・ナポレオンの将軍、バルシェーによって法王ピオ 6 世が投獄される。
- ・黙示録 13 : 3 「致命的な傷」
- ・この「小さい角」「獣」は終わったのではない！ キリストの再臨まで続く。「致命的な傷」は治るのである。
- ・紀元 476 年からキリストの再臨まで続く帝国はどの国か？一つしかない！
- ・2 テサロニケ 2 : 3-8 によると、キリストの再臨で滅ぼされるまで続く帝国！
- ・マタイ 24 : 15 「荒らす憎むべきもの」は世の終わりまで続く。
- ・ダニエル 7 : 26、27 「審判」の時に滅ぼされるまで続く。
- ・反キリストは、ある個人ではなく、紀元 476 年から再臨まで続く組織、勢力である。

2. 反キリスト、ローマ法王教の場所は？

黙示録 13 : 2,3 どこから？ 海—イザヤ 17 : 12 海、水 もろもろの国民、

黙示録 17 : 15 あらゆる民族、群衆、国民、国語

- ・ヨーロッパは多くの民族が住み、文明の栄えたところ
- ・ダニエル 7 : 8 「その中に(10の角)」口語訳、新共同訳「もう一本の小さな角」
- ・さらに明確に黙示録 13 : 2. 龍は「位」「王座(新共同訳、欽定訳)」を獣に与えた。龍＝ローマ帝国の王座、政府はローマにあった。ローマ帝国はそれをローマ法王教にローマを与えた。

3. 反キリスト、ローマ法王教はどんなことをするか？

1. ダニエル 7 : 25 いと高き者に対して言葉をだし

- ・黙示録 13 : 5 大言、汚しごとを語る口：
 - ・ヨハネ 10:33 神であると主張

- ・マルコ 2:7 罪をゆるす権威
- ・法王無謬説

2. 聖徒に戦い、迫害を挑む ダニエル 7:21、黙示録 13:6, 7

中世時代(1260年)、致命的な傷がいやされたらさらに恐ろしい迫害(1260日)!

3. 時と律法を変えようとのぞむ

- ・カレンダーの変更
- ・安息日の変更→日曜礼拝
- ・十戒の変更→2条削除、10条二つに分割!

こんなことをするのは、ローマ法王のみ!

今や、致命的な傷はほとんど完治している!ローマの世界支配はいつまで続く?

キリストの再臨まで!

- ・道徳的、政治的、経済的支配
- ・アメリカでの権威
- ・ヨーロッパでの支配
- ・まもなく全世界の支配

あなたの王を今日選べ

1テモ 6:15 時がくれば、祝福に満ちた、ただひとりの力あるかた、もろもろの王の王、もろもろの主の主が、キリストを出現させて下さるであろう。

黙示録 17:14 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。

19:16 その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。

ヘブルの三青年の勇気!

「しかし神は、それとは別のことをお命じになった。すべての者が、人間の権力を象徴する偶像にひれ伏したのではなかった。礼拝している群衆の中に、そのようなことをして天の神の栄えを汚すまいと固く決意した三人の者がいた。彼らの神は、王の王、主の主であった。彼らは他の何ものにもひれ伏さないのがであった。」国と指導下 115

バプテスマのヨハネ 1 希望 104

「ヨハネは王の美しさをながめて、自分を忘れた。彼は尊厳な聖潔を見て、自分が無能力で無価値なことを感じた。彼は神を仰ぎ見ていたので、人をおそれることなく、天の使者として出て行く用意ができた。彼は王の王であられる神の前に低く腰をかがめていたので、地上の君主たちの面前に恐れることなくまっすぐに立つことができた」

虹 130 神のみ子にます